

尾張北支部

12社から25件の報告 不法投棄防止への住民 意識は高まってきた。

尾張北支部（中野兼司支部長）不法投棄防止パトロール報告会が、6月8日（水）午前11時からグリーンパレス春日井（春日井市東野町）で会員企業25社26名、来賓として尾張県民事務所廃棄物対策課主幹 山本文晴氏、当協会から専務理事待遇 渡邊 修氏が出席して行われました。



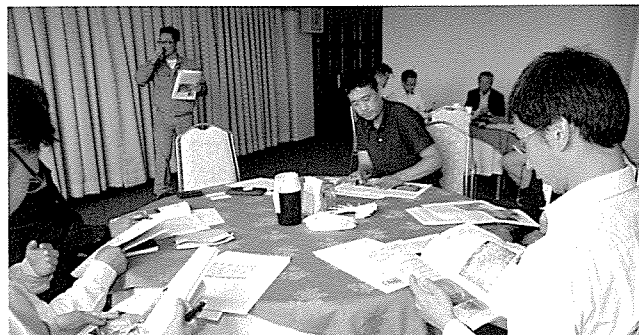
中野支部長

報告会は金田英治副支部長の司会進行で始まり、中野支部長は挨拶で「不法投棄防止キャンペーンに当たり、精力的に巡回していただきありがとうございます。今年も不法投棄、不適正保管など12社から25件の報告がありました。報告の中には3～5年もの間、不法投棄されたままの現場や、長年放置されている不適正保管の現場がありました。また、一般廃棄物の粗大ごみの不法投棄も確認しました。パトロールの報告によって、このような現場が改善され不法投棄の撲滅につながれば、我々の取組も成果が得られ、社会貢献につながる喜ばしい結果となります。」と述べました。



渡邊専務理事待遇

来賓で出席の渡邊専務理事待遇からは、ダイコー（株）の食品横流しの事案について、廃棄物の量や保管の状態、排出者が不明な点など、現状について説



明があり、「不法投棄の後始末には時間もコストもかかるため、パトロールによる早期発見の意義は大変大きいと思います。」と述べました。

パトロールの報告では、不法投棄、不適正保管など25件の説明がありました。

- ①愛知池の運動公園近くの私有地にマットレス、廃家電等の粗大ごみの不法投棄があり、昨年も確認したが量が増えていた。
- ②瀬戸市定光寺町の県道沿いで、冷凍海老フライの食品が梱包された状態で不法投棄されていた。
- ③瀬戸市水北町地内の市道沿いで、資材が山積みされ大量に不適正保管されていた。
- ④一宮市木曽川町付近の空地に冷蔵庫、紙くず、コンクリート殻、テレビブラウン管、ペットボトルが散乱していた。
- ⑤あま市七宝町伊福地内に、がれき類、木くず、混合廃棄物が、約30㎡ほどが不適正保管されていた。

報告ではほとんどが一般廃棄物の不法投棄の現場でしたが、廃棄物の量は年々減少し住民の意識が高まった成果ではないか、とのことでした。

各社からの報告を受けた山本主幹は「皆様からの貴重な情報は県と市で共有し、不法投棄防止に向けて有効活用させていただきます。」と感謝の意を述べました。



尾張県民事務所
山本主幹

